石州柿本奉納

長州須佐連中

名にし高角山清神へ
一千有餘年の今日に至り
神徳の高き詠に含まて

吐雲洞
東之

言の葉もおもふ穂より神祭り
帝乃ちんの中に揺る部
海作りも永き日まもりまごと
きんかふあしつりれし夜もの
猶手に同じ乃涼しよりり含
賑ふとそつて鼻よ出後
月みおの迫ふ下りてハおもふらん
連り遠さる一際のうら声

ぬ布　波舟　仁射　風平　左里　如髪　古梅

下略

各詠

千年経ぬるも更らに神の松
真ハむの高や始めて神みぬ
神風のこゝろし幾へも布へも
ぬさ疾のむかもしろし神ぬ、給
雲下りて信達を待小夜のむ
ほのぐ佐もし神の汐干ママ宮
陽さしみれひもふし神の庭
神籬や古りし此ところハまのかり
数ふれても人もかえるら神まつり
さかき綱さへらほ苔むし神の帝
若草や陽かゝつてまた添し
袖はれて猿も音なり信達の奥
梅よもぎころかりさしむ参り
真名井一白も始らすぶらり
家もロ深く仕ふまち川
新真の高おし待うく神ぶり
称口まる言も母のふるまきさ
神ふきや稍くまも此影
華指う手読おふ古草ぐ
ゆゑ神の命よし柁へ白れ為
田螺よさらしさぬけ代々神九英

石

浮舟　口林　凡手　古桂　雨柳　松里　如柳　雨里　重色　うらら　吾翁　山帝　花秀　此砂　起六　楽枝　小色　凡子　恬文　左溪　芭江　甑波

文通

松乃むすぶて千代鶴神の庭
ちのしとる千八年のめかさし
神かきいよいよをよろこびて此室
千年此松さへふりし尽きぬ給
表まへる緑苔たる浦の清めぐり
華拵や家の郎の佐も涼しく
世よしむを吹きて久し神こゝ給
華拵の花も盛りて其神の庭

義

嵐竹　然風　東之　嘉音　露洲　新巴　未夕　弁桂

右額を奉納する子細
書信あり

有りし所たよふ
須佐乃
吐雲人

安永二
季夏